

医療通訳専門技能認定試験受験資格に関する教育訓練ガイドライン

次に掲げる各教育項目について、各教育内容を履修していることを基準とする。

※本ガイドラインは、厚生労働省『医療通訳育成カリキュラム基準』に基づく。

教育項目	教育内容	詳細	時間数 (目安)
1. 医療通訳理論	<ul style="list-style-type: none"> 通訳理論 医療通訳者の役割^{*1} 対話通訳と相互作用 	<ul style="list-style-type: none"> 通訳の定義、通訳理論（通訳プロセス等）について理解する。 医療通訳の定義、その役割について理解する。 コミュニケーションにおける通訳者の責任、通訳者がコミュニケーションに与える影響（相互作用）について理解する。 コミュニティ通訳と医療通訳、日本における医療通訳の歴史について学ぶ。 <p>^{*1} 医療通訳育成カリキュラム基準の「医療通訳者の役割」に沿っていること。</p>	7.5～
2. 患者の文化的および社会的背景についての理解	<ul style="list-style-type: none"> 日本に暮らす外国人の現状 外国人医療の現状 外国人の在留資格や滞在ビザ 	<ul style="list-style-type: none"> 日本に暮らす外国人の現状、外国人患者の受診、在留資格や滞在ビザについて理解する。 	1.5～
3. 医療の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> 医学概論 身体の仕組みと疾患の基礎知識 検査・薬に関する基礎知識^{*2} 	<ul style="list-style-type: none"> 身体の仕組みと主な役割・疾患の分類について理解する。医療面接の流れを理解する。 医療現場で行われる会話を正確に理解するために、各器官の名称や器官の仕組み、働きを理解し、主な疾患の原因と症状、治療方法について基本的な知識を得る。 <p>(循環器、呼吸器、消化器、筋・骨格系器官、腎泌尿器と内分泌・代謝系器官、眼科領域、耳鼻科領域、皮膚科領域、精神科領域、脳・神経系、産婦人科領域、小児科領域)</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床検査、画像検査を中心に主な検査の種類・目的や検査方法、検査時の注意事項など検査に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。 処方薬を中心に薬の種類と分類、飲み方、お薬手帳などの薬に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。 <p>^{*2} 検査・薬については、単独ではなく各領域の講義の中で一緒に取り上げても構わない。</p>	24～
4. 日本の医療制度に関する基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> 日本の医療制度の特徴 社会保障制度 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関（施設）の種類、医療従事者の種類とその役割、各診療科の種類、医療機関の流れなど、日本の医療制度についての基礎知識と関連用語を学ぶ。 社会保障制度では、医療保険制度を中心にその内容、関連用語を学ぶ。 	4.5～
5. 医療通訳者の自己管理	<ul style="list-style-type: none"> 医療通訳者の健康管理 感染症と感染経路 医療通訳者の心の管理 	<ul style="list-style-type: none"> 万全な体調で業務にあたるための健康管理、メンタル管理の必要性について理解し、ストレスやバーンアウトなどの予防法、対処法について知る。 感染症の主な種類と感染経路や予防接種など、感染症に関する基礎知識、関連用語を学ぶ。 	1.5～

教育項目	教育内容	詳細	時間数 (目安)
6. 専門職としての意識と責任（倫理）	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の権利・医療倫理 ・医療通訳者の行動規範^{*3} ・倫理演習^{*3} 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理の4原則、患者の権利について理解する。 ・専門職として医療通訳者がどのように行動するべきか、医療通訳育成カリキュラム基準、医療通訳者の行動規範を中心に、基本的な考え方を理解する。 ・演習や事例検討を通じて、状況に合わせて行動規範に則った対応や姿勢を身につける。 <p>^{*3} 医療通訳育成カリキュラム基準、医療通訳者の行動規範に沿っていること。（医療通訳テキスト）</p>	6～
7. 医療通訳者のコミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション・異文化コミュニケーション ・対人コミュニケーション・患者との接し方 ・患者・医療従事者間の関係とコミュニケーション ・健康や医療、コミュニケーションに関する文化的・社会的違い ・医療通訳者の文化仲介 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとは何であるかを理解し、異文化間のコミュニケーションやコミュニケーションに影響を与える言語、非言語メッセージについて理解する。 ・患者と医療従事者の関係とコミュニケーションについて理解する ・医療通訳に必要な対人コミュニケーション技能と、患者への接し方について理解する。 ・健康や医療、コミュニケーションに関連した生活習慣や価値観、宗教観や思想などの文化的・社会的違いを理解する。 ・医療通訳者の文化仲介について理解する。 	7.5～
8. 通訳に必要な通訳技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートテイキングの理論と技術 ・逐次通訳演習^{*4} ・情報収集方法（用語集の作成と情報収集）^{*5} 	<ul style="list-style-type: none"> ・通訳訓練法やノートテイクについてその理論を学び演習を通じて技術を身につける。 ・通訳を行う前の事前準備や情報収集の重要性と検索方法、用語集を作成する方法を学ぶ。 <p>^{*4} 語学力を高めるためのトレーニングではなく、逐次通訳を行うための講義・指導をすること。</p> <p>^{*5} この講義は [3. 医療の基礎知識]、[4. 日本の医療制度に関する基礎知識]、[5. 医療通訳者の自己管理] の前に実施し、受講中に用語集を作成すること。</p>	7.5～
9. 通訳実技 ^{*6}	<ul style="list-style-type: none"> ・医療通訳業務の流れと対応 ・通訳者の立ち位置とその影響 ・場面別模擬通訳演習^{*7} 	<ul style="list-style-type: none"> ・通訳者の立ち位置とその影響、通訳業務の流れとその対応について理解する。 ・各教育項目で学んだ知識や技能、倫理を活用してさまざまな場面に対応した通訳ができる。 <p>^{*6} 「9. 通訳実技」については、履修最後に実施するのが望ましい。</p> <p>^{*7} 9コマ（13.5時間）以上実施することが望ましい。</p>	15～

教育項目	教育内容	詳細	時間数 (目安)
10. 通訳実務実習	・オリエンテーション ^{*8}	<ul style="list-style-type: none"> ・実習目標・実習計画などの作成 <p>^{*8} 実習前に実施すること。事前レポート等の作成をオリエンテーションとしてもよい。</p>	3～
	・実習日誌・実習後レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌等の記載 ・実習後レポート 	4.5～
	・実務実習	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を終え、一定の評価を得た通訳者が、各項目で学んだ知識や技術、倫理を現場で実践する。 ・外国人患者の対応や通訳実習が可能な医療機関が望ましい。 ・医療機関での実習が困難な場合は、医療通訳を想定した演習（模擬医療通訳演習）や一般の対話通訳を実習とみなしてもよい。ただし一般通訳は最大5単位（7.5時間）までとする。その場合は、医療機関で2単位（3時間）以上の実習（病院見学・受付支援・患者対応）を必ず行うこと。 ・実習では、実習生に指導、教育ができるコーディネーターをつけることが望ましい。 	30～